



9月6日	「世界遺産条約採択40周年記念シンポジウム」の開催について
9月12日	郡司農林水産大臣の国内出張について
9月13日	「第2回 新たな世界自然遺産候補地の考え方に係る懇談会」の開催及び一般傍聴について
9月19日	「第11回 聞き書き甲子園」参加高校生と「名手・名人」の組み合わせについて
9月19日	平成24年度「木づかい推進月間」について
9月28日	「平成23年度 国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」について

## 森と木を活かす 「グリーン・イノベーション・シティ」 フォーラム

10月1日、東京都において、森と木を活かす「グリーン・イノベーション・シティ」フォーラム～森と暮らしを育み、地域活性化につなぐ「木づかい」のススメ～が開催されました。

このうち基調講演では、島崎信氏(武蔵野美術大学名誉教授、NPO法人東京・生活デザインミュージアム理事長)が、「北欧の生活デザインに学び、日本の暮らしの豊かさを高める「木づかい」のススメ」と題し、北欧における木と生活の関わりについて、ノルウェーの事例として、家具などの日用品は木製が多く、長い期間利用されること、住宅には薪ストーブ用の煙突をつけることを義務づけて間伐材などの利用を促進していること、生活に家具を取り込んでいく生活デザインの意識が高いことなどについて紹介がありました。その上で、工業製品は製造されたときが一番機能的で美しいが、木の特性が活きるのは木の種類にもよるが伐採してから80年から120年後とも言われており、年月を経たものの美しさを知ってもらい、木を使うことへの意識を変えていく取組が重要であると述べられました。

また事例発表では、都市部を中心に6つの自治体からそれぞれの木づかいの取組について発表があり、このうち、宮城県東松島市からは、震災の教訓から市内の再生可能資源(森と風と太陽)を最大限に利用し、持続可能な地域経営の実現を目指した復興事業を展開していること、その中で街や住空間で森の恵みを感じられる木化都市づくり、木材をはじめとしたバイオマス資源を活用した発電への取組やC.W.ニコル氏の協力による森の学校プロジェクトなどを進めていることについて紹介がありました。

このほか、都市と山林を有する地方都市との協定による取組や、認証制度による取組などが紹介されました。

このフォーラムは木づかい推進月間のキックオフイベントとして開催されたものであり、今後、このような「木づかい」の取組がさらに広がっていくことが期待されます。

### 農林水産省新政務三役

10月1日に発足した野田第三次改造内閣における農林水産省の新政務三役が決まりました。



ぐんじ あきら  
**郡司 彰**  
農林水産大臣(再任)



よしだ こういち  
**吉田 公一**  
農林水産副大臣



ささき たかひろ  
**佐々木 隆博**  
農林水産副大臣(再任)



かじわら やすひろ  
**梶原 康弘**  
農林水産大臣政務官



washio えいじろう  
**鷺尾 英一郎**  
農林水産大臣政務官

**リサイクル適性(A)**  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。